

414
A 3266

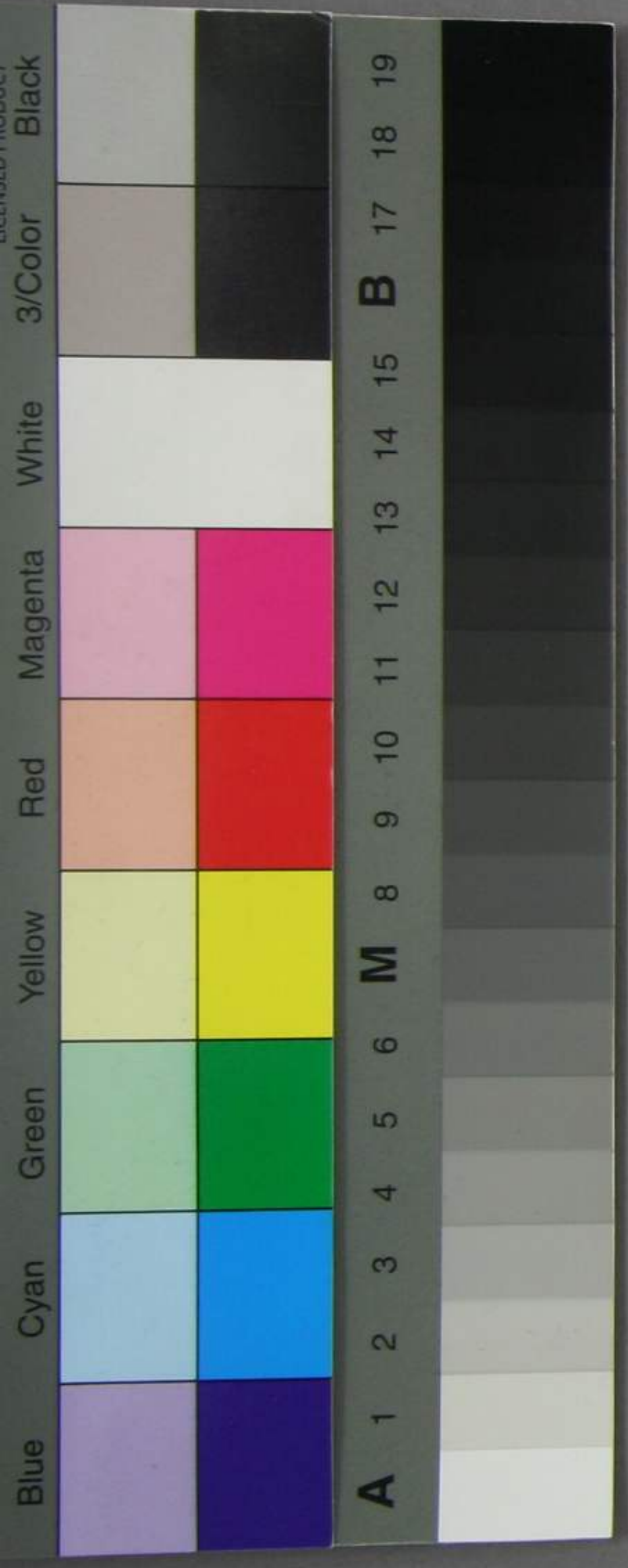


海商奨励建議書

年 田 豊

大正十一年四月
豊田 寄贈

入レリト云ヒ独リ海商ノ業ハ依然近海若千里ノ間ニ局
 蹙セラ未タ其羽翼ヲ海外万里ニ伸ス能ハス然リ而シテ
 凡リ国家ノ富強ハ必ス農工商三者花馳ノ進歩ニ因リ殊
 ニ海商ノ如キハ国家ノ富強上ニ著大ノ関係ヲ及ホスモ
 ノタリ故ニ時ノ古今トナリ国ノ大ヤトナリ苟モ咸四海
 ヲ靡シ富天下ニ冠タルモ、ハ必ス航海通商ノ利ニ因ラ
 サルハ莫シ是方今宇内ノ各國相競ヲテ航海通商ノ皇張
 ラ事トスル所ナリ
 然リト云ヒ凡リ何ノ因タラハス版圖四隣ニ隔絶シ
 テ外邦ノ暴舉侵襲ヲ防キ能リ蒼生ヲ保護シ其生命財產
 ノ安固ヲ確保スルニ足ルベキ天賦ノ勝地ヲ占ムルニ非



サレハ国内商業ノ中心ト為ルニト輒リ期スハカラス事
ニ本邦ハ四面海ニ濱シ東洋ニ屹立シテ亞細亞大陸ニ陽
絶スルモ其距離甚ク遠カラス加フルニ邦土山海ノ物産
ニ富ミ邦民百工ノ意匠ニ秀ラ且勇敢ノ氣象ヲ有スルハ
世界万国ノ許ス所故ニ將來海商ヲ以テ本邦立國ノ基存
ト定メ專ラカラス此一事ニ盡シテ充分ニ之ヲ奨励シ特別
ノ保護ヲ加フルニ至ラバ必ラスヤ海商ノ現状ヲ一變シ
テ隆盛ノ氣運ニ赴カシムルイ期ニテ待ツ可キナリ然レ
此若シ其奨励保護ノ方法宜キヲ得サルハ海商ノ發
達ニ害ニ其功ヲ觀サルノミナラス動モスレバ種々ノ弊
害ヲ醸成シ結局巨額ノ國資ヲ浪費シテ止マシノミ殷鑒
遠カラス近ク其同運輸會社設立ノ結果ニアリ慎マサル
ハケンヤ

今夫レ前進諸海國ノ實験セル成績ニ依レバ之來海商保
護ノ精神タルヤ外ハ則テ外國船ノ運輸ヲ制限シテ自國
船ノ運輸ヲ増盛ナラシメハ以テ海商社會一二ノ者ニ
偏セスシテ全國一般ノ公益ヲ主トスルニアリナク本邦
ノ期スル所モ亦此精神ヲ実行スルニ外ナラス今本邦
細目ヲ分テテ第一海運規模ノ擴張第二造船事業ノ奨励
第三海外運航船隻ノ奨励第四内國產物輸出ノ奨励ト爲
ス若シ夫レ詳細ノ事由ニ至リテハ逐次各目ニ就テ左ニ
縷説スル所アルベシ

第一 海運規模ノ擴張

本邦人ニシテ西洋帆船ヲ所有シ海運ノ業ニ從事スル者
方今各地ニ輩出シ其數鮮クニアラスト雖モ大抵資力薄
弱ニシテ堅牢ノ巨船ヲ購入シ能ハサルハ素ヨリ論ナク

成弊ノ船員ガモ之ヲ雇用ニ難ク僅カニ持テ一地方ニ守
リテツ量ノ貨物ト棄若トヲ運送スルニ止ルノミ夫ノ郵
船會社ノ如キハ優渥ノ保護ヲ亨ケ特別ノ恩典ヲ蒙ハリ
資本充實コトヲ加フルニ堅牢ノ船舶數隻ヲ所有シ海外運
航ノ準備既ニ全ク整頓シタルニモ拘ラス進シテ之ニ後
事スルノ念ナリコトヲ後ニ小成ニ安スルモノニ似タリ是
ヲ以テ本邦海運ノ事業ハ未ク輒ク其發達ヲ望ムハ力ナ
ス今其然ル所以ヲ釋スルニ後來政府ニ於テ航業ヲ奨励
セラルハ一ニシテ是ヲスト虽比其保護一二ノ航業者ニ
偏シテ海運社會全体ニ及バサルト保護ノ度極メテ優渥
ニ過リルトノ二省ニ職由セスンハアラス故ニ適々保護
ヲ蒙ルル者モ其保護ノ優渥ニ甘シテ自ラ偷安ノ風ヲ
醸成シ後ヲ進取ノ氣象ヲ失ヒ餘弊再余ノ海運社會ニ波

及シ遂ニ全体ノ海運事業ヲシテ後ク發達ノ機會ヲ得ル
一能ハサラシメハ疑ヲ容レス是全國一般ノ海運社會
ヲ總總シテ海運ノ規模ヲ擴張セサル可カラサル所以ナ
リ但シ之ヲ擴張スル方法ニ至リテハ航路擴張建議案ニ
譲リ別ニ本按ニ贅セス

第二 造船事業ノ奨励

西洋航船ノ我國ニ行ワルヤ日尚ホ淺シト虽比本邦ノ
商家競フテ之ヲ利用セント欲シ當初専ラ外邦ノ製ヲ仰
キニモ今日其需用ノ急ナル既ニ船槽ヲ築造シテ船舶ノ
新造又ハ修繕ノ業ヲ営ム者尠カラス然リト虽比百年度草
創ノ際造船師未ク造船ノ法ニ精シカラサルト之ヲ購フ
者資力ニ乏シキトヲ以テ其構造自ラ粗悪ニ流レ堅牢ノ
船舶ヲ造出スル一極メテ稀ナリ然ルニ海商ノ進歩ハ大

ニ船舶ノ良否如何ニ關スルヲ以テ苟モ墜序ノ船舶ヲ得
ルニ非サレバ到底其發達ヲ期スベカラス是造船事業ヲ
奨励セザル可カラザル所以ナリ今其奨励ノ方法ヲ按ス
ルニ新タニ造船規則ヲ設ケ奉則ノ規程ニ從ヒ内國人所
有ノ船舶ニ於テ製造シタル西洋船舶ニ限り其噸數ノ多
寡ト構造ノ性質トニ應ヒ一噸若干円ノ割合ヲ以テ之ニ
助成金ヲ文附シ且此際西洋船舶ノ船舶ヲ受スルヲ以テ
適當ナリトス

第三 海外運船船員ノ奨励

海運ニ方一ノ關係アル者ハ船員是レナリ今本邦ノ船員
ヲ算スルニ船長運轉手機関手ヲ併セテ三千三百名余也
レトモ其内多クハ業ヲ沿海航通船ニシテ執レルモノニ
シテ緊シテ船舶ノ運用機関ノ運轉其他船員ノ應サニ知

悉ク可キ航海上百般ノ學術ニ乏ヒリ適々幾分ノ學術ヲ
備フルモ實地海外ノ運船ニ經驗セサルヲ以テ自在ニ一
般ノ進退ヲ司トルヘキ任ニ堪フル者殆ント稀ナリ故ニ
沿海ノ間ヲ航通スル船舶ト雖モ郵船等ノ如キハ專ラ外
人ヲシテ船長其他ノ役員ニ任スルモノ多シ然リト雖モ
曩キニ高船學校ヲ設立シテ船員ヲ陶冶スル茲ニ年アリ
而シテ其已ニ業ヲ卒ヘタル者亦尠シトモ然ルニ是亦
壯年有為ノ卒業生ニシテ碌々沿海數里ノ間ヲ限リテ運
航ニ甚シキニ至リテハ官商會社ノ陸上事務ニ從事シ曾
テ一人トシテ海外万里ノ波濤ヲ跋躋シ實地研究ニ鞅掌
スル者アルヲ聞カサルハ實ニ憾歎ノ至リニアラスヤ惟
フニ素ト是奉邦ニ於テ海外ニ航通スル船舶ニ乏シキ一
因ハ其一因ヲナスベシト雖モ深ク其内實ヲ探クレハ職

トシテ本邦ノ船員社會ニ冒険ノ勇氣ヲ失ヒタル事實ニ
淵源セシムルニバアラズ是特別ノ法律ヲ設ケテ海外運航
船員ヲ奨励セサルベカラザル所以ナリ今其奨励ノ方法
ヲ按ズルニ本邦人ノ所有ニ係ル高船ニ乗組ニ數回海外
ニ運航シ我海商ノ發達ニ力ヲ致シタル者ニ位記若シハ
勳章ヲ授與シ就中之一ニ與シテ殊勲偉功ヲ奏シタル者ヲ
華族ニ列シ其勳勞ヲ褒賞スルヲ以テ適當ナリトス

第四 内國產物輸出ノ奨励

本邦輸出ノ物産ハ其原價ニテ五百七十万円餘中ニ就キ
外人ノ手ニ因リテ賣捌キ外國船ヲ以テ運輸スルモノ少
クモ十中ノ八九ヲ占ムルニ而シテ其賣買上ノ以テ運銀
保價料等ニ至リテハ果シテ幾許ナルカ今輸スリ之ヲ明
知スルヲ能リスト屢此意ヲニ必ス原價ノ二三割以上ニ

達スルモノニシテ其巨利ハ皆外人ノ壟斷スル所ト爲レ
リ然ルニ本邦ノ貿易家今尙ホ進シテ此利ヲ取ルノ念ナ
ク運依外人ノ爲ス所ニ任シ海運社會ヲシテ往々運貨ノ
不足ヲ訴ヘシムル力如キ形況アルハ抑々何ノヤ要スル
ニ後未本邦人ニ於テ自ラ直輸出ノ業ニ從事スル者鮮ク
後テ輸出物ノ敷路峽隘ニ失ヒテ之ニ海外運輸ヲ依批ス
ルコト極メテ稀レナルカ爲ナリ故ニ本邦人自ラ國產ノ
敷路ヲ世思ニ求メ陸續之ヲ輸出スル中ハ海運ノ事業セ
ズ後テ隆盛ノ氣運ニ赴リバシ是國產ノ直輸出ヲ奨励セ
サルハカラサル所以ナリ今其奨励ノ方法ヲ按ズルニ本
邦人所有ノ船舶ニ因リテ本邦人自ラ内國產物ヲ外國ニ
輸出シタル中ハ其内未製造品穀類金銀等ヲ除クノ外其
輸出品ノ種類ニ應ヒテ多クノ由成金ヲ交附シ販賣ノ便

ヲ得セシムルヲ以テ適當ナリトス果シテ斯ノ如クナレ
バ一ハ則チ内國產物輸出ノ増殖ヲ促ス一端トナリ一ハ
以テ海運振起ノ媒ト爲リ一舉兩便ヲ得ルニ庶幾ラン
乎

之ヲ要スルニ本按ハ主要ト鐵路擴張建議按ト互ニ瓜葛ノ
關係ヲ有スルヲ以テ之ト同時ニ本按ヲ實施スルハ方今
ノ時勢ニ於テ最モ必要ナルトス故^{兩按共ニ}宜ク速ニ之ヲ實施
ス可シ果シテ然ラバ則チ彼此相讓テ初テ我國海商發達
ノ功ヲ全フスルヲ得ルニ但シ本按ニ關スル助成金、
財源ハ別ニ國民ノ負擔ヲ加重スルナキモ之ヲ支辨スル
ニ是レ可キ者アリ即チ文臣ノ恩給及ヒ其遺族ノ扶助<sup>明治
廿三</sup>
年法律第百四十三
号及第百四十四号ヲ廢止ニ因リテ年々國庫ニ收入ニ得ルキ見込
ル恩給扶助料ノ剩餘金見レナリ而シテ此剩餘金ハ及令

其内幾分ヲ割キ以テ之カ財源ニ充ツルモ紳士トシテ尚
餘裕アルヲ信ス是ヲ以テ政府宜ク此意ヲ作シ且左ニ掲
クル建議ノ要領ニ基キ更ニ精密ノ按ヲ具シテ議會ノ採
賛ヲ求ム可シ

建議ノ要領左ノ如シ

第一項 造船事業ノ獎勵

第一條 日本人ノ所有ニ係ル造船所ニ於テ日本產ノ材
料ヲ使用シ西洋船舶ヲ製造シタル中ハ本船總噸數ノ
多寡ニ從テ左ニ規定スル割合ノ助成金ヲ造船者ニ交
附スル事

- 第一 鉄船若リハ鋼鉄船ハ一噸ニ付金拾貳圓
- 第二 木船ニシテ貳百噸以上ノモノハ一噸ニ付金
四圓貳百噸以下ノモノハ同金二圓

第三 鉄骨木皮船ハ一噸ニ付金八円

第四 汽船格付ノ機関及ヒ附属品(蒸氣唧筒副機関、船荷揚卸器械、涼力ノ作用ニ因リテ運轉スル通風扇、涼籠、格鐘管ノ類)ハ重量三百噸ニ付金貳円四角五分

第二條 鉄製若クハ鋼鉄製ノ船梁及ヒ肋材ヲ具フル木船ハ之ヲ鉄骨木皮船ト看做ス事

第三條 船舶ノ模様習ニ因リテ其噸数ヲ増加シタルハ増加ノ噸数ニ應ジテ第一條ニ規定スル割合ノ助成金ヲ請取スルヲ得ル事

第四條 船舶ノ製造完了ノ上船内ニ推進機関及ヒ函筒ノ附属品ヲ格附ケタル片モ亦右ニ準スル事

第五條 涼籠ヲ取替ヘタル片ハ新規製造ニ限り火管ノ重量ヲ差引キ三百噸ニ付金壹円二十分ノ割合ヲ以テ

助成金ヲ其所有者ニ交附スル事但シ其涼籠ハ日本製ニ限ルモノトス

第六條 第一條乃至第五條ニ規定スル助成金ハ最寄ノ税関工船籍證書ヲ差出シタル上税関長ヨリ差出スル證明状ヲ以テ大藏大臣ニ其下附ヲ請願スルヲ得ル事

第二項 海外運航船員ノ奨励

第七條 日本人ニシテ日本商船ニ乗組ミ船長運轉手操縦手ノ職ヲ執リ海外各地(支那朝鮮近海ヲ除ク)ニ運航スル者ハ第八條第九條ニ規定スル殊遇ヲ與フル事

第八條 海外各地ニ運航シテ本邦海商ノ發達上ニ殊勲ノ偉功ヲ奏シタル者ハ其勲功ヲ顕彰スル爲メ終身若クハ世襲ノ華族ニ列スル事

第九條 海外各地ニ運航シテ殊勲偉功ナキモ其勤

另十ヶ年以上ニ達スル者ハ九ノ區別ニ從テ位記若クハ勲章ヲ授ケルニ二十五年以上ニ達スル者ハ之ニ終身年金ヲ附スル事但シ運轉手機関手ハ各々百円船長ハ二百円ヲ限リトス

第一 十ヶ年以上二十ヶ年未満

(甲) 運轉手若クハ機関手ノ職ヲ執リタル者

後八位若クハ之ニ相當スル勲章

(乙) 船長ノ職ヲ執リタル者

後六位若クハ之ニ相當スル勲章

第二 二十ヶ年以上三十ヶ年未満

(甲) 運轉手若クハ機関手ノ職ヲ執リタル者

正八位若クハ之ニ相當スル勲章

(乙) 船長ノ職ヲ執リタル者

正六位若クハ之ニ相當スル勲章

第三 三十ヶ年以上三十五ヶ年未満

福嘉山

(甲) 運轉手若クハ機関手ノ職ヲ執リタル者

後七位若クハ之ニ相當スル勲章

(乙) 船長ノ職ヲ執リタル者

後五位若クハ之ニ相當スル勲章

第四 三十五ヶ年以上

(甲) 運轉手若クハ機関手ノ職ヲ執リタル者

正五位若クハ之ニ相當スル勲章

(乙) 船長ノ職ヲ執リタル者

正四位若クハ之ニ相當スル勲章

第十條 船長運轉手機関手ニシテ海外各地ノ運航ニ從事スルコト廿五ヶ年ニ達シ尙ホ其運航ヲ繼續スル際死没シタル片ハ九ニ規定スル割合ニ從テ其寡婦小兒ニ扶助金ヲ給スル事但シ其小兒ハ長男若クハ長女一名ニ限ルモノトス

第一 船長ノ寡婦ハ廿五ヶ年ニ付金貳拾貳円

第二 運轉手若クハ機関手ノ寡婦ハ壹ケ年ニ付金
拾圓

第三 船長ノ小兒ハ壹ケ年ニ付金拾壹圓

第四 運轉手若クハ機関手ノ小兒ハ壹ケ年ニ付金
五圓五拾錢

第十一條 前條ニ規定スル船員ノ寡婦ハ終身扶助金ヲ
受クルヲ得然レモ小兒ノ扶助金ハ年齢廿一歳ニ達ス
ルヲ俟テ其支給ヲ停止スル事

第三項 内國産物輸出ノ奨励

第十二條 日本人所有ノ西洋形船ニ因リテ内國産物ヲ
外國ニ輸出シタル片ハ其輸出者ニ助成金ヲ交附スル
事但レ日本國民ニ限ルモノトス

第十三條 助成金ヲ交附スヘキ輸出物ノ種類及ヒ助成

金ノ割合ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル但シ未製品穀
類、金銀ハ助成金ヲ交附スル限リニアラサル事

第十四條 内國産物ヲ輸出スルモ輸出ノ総額六ケ月間
ニ原價六百圓ニ滿タサル片ハ助成金ヲ交附セサル事

第十五條 第十二條ノ規定ニ從テ内國産物ヲ外國ニ輸
出シタル者ハ一定ノ手数料ヲ納附シタル上助成金ノ
下附ヲ大藏大臣ニ請願スルヲ得ル事

第十六條 内國産物ノ輸出ニ関シテ助成金ノ下附ヲ請
願スル片ハ其物品全ク内國産ニシテ實際之ヲ海外ニ
輸出シタルニ相違ナキ事實ヲ輸出港ノ税関ニ証明シ
タル上税関長ノ証明状ヲ請受ケ助成金請願書ト共ニ
之ヲ大藏大臣ニ差出スヘキ事

第四項 附則

第十七條

此法律ハ海商獎勵法ト稱スヘキ事

第十八條

此法律ハ明治二十六年七月一日ヨリ實施ス

ヘキ事

第十九條

此法律實施ノ日ヨリ西洋形船ノ船稅ヲ免除

トヘキ事

第二十條

此法律實施ノ為メ必要ナル諸規則ハ別ニ勅

令若クハ省令ヲ以テ之ヲ定ムベキ事